

ご 挨拶

第7回子ども学会議学術集会開催に当たって

子どもの環境をより良いものにしていくために、大人たちは、それぞれ自分の専門領域で研究と討議を重ねています。しかし専門性の追求は、往々にして専門外のことへの関心を低下させ、他の領域とは、隣接しているにもかかわらず、思いがけない「距離」を作ってしまうことがあるものです。子どもたちはそのような世界で、専門領域などとは全く無関係に、自由に動き回り、成長していきます。現代社会における子ども問題の多くが、このような距離によってできる空間、すなわち互いの専門外の領域で起こっているとしたら、そこは誰も関与していない闇の世界であることに、私たちは気づかなければなりません。

子どもを取り巻く教育、医療、保健、福祉等、各領域の専門家が連携を取らなければ、子どもたちの世界はけっしてよくなりません。このたび、子どもを長期間、定期的に観察できる立場にあり、生活を反映する口腔疾患・機能を専門とする小児歯科学領域から、本学術集会を主催する運びとなりました。私たち小児歯科医は日々子どもたちの口の中を見つめています。彼らの口の中は彼らの世界を現しています。本集会では私たちの目から見た今の子どもたちが抱える多くの問題点を提起いたしました。多様な専門領域の知を結集し、深く議論し、本質の解明を探りたいと思います。

子どもサポートを統合することは今、子ども世界に求められている最も重要な課題と考えます。

第7回日本子ども学会大会長
明海大学歯学部形態機能成育学講座
口腔小児科学分野教授
渡部 茂